

くすり勉強会の活動

【くすりネット・くすり勉強会とは】

くすり勉強会は、2000年4月に発足、医薬品を社会的な視点から様々な話題に焦点をあてて考え、議論する研究会として開催してきました。開催情報はメーリングリスト「くすりネット」その他でお知らせします。勉強会での議論を反映して論文発表しているものもあります。

開催記録は、「臨床評価」誌ホームページに、本活動年表と、他のシンポジウム等と合わせて詳細開催記録があります。

<http://cont.o.oo7.jp/sympo.html>

メーリングリストについては、一番下にある案内をご覧ください。

【くすり勉強会で取り上げたテーマ】

開催回	開催日	話題
第1回	2000/4/23	薬に関する法律/制度 松本 佳代子
第2回	2000/5/21	薬の多面性 平田 智子
第3回	2000/6/18	医療化論—社会学の医療批判 栗岡 幹英
第4回	2000/8/20	やってみよう！色々なコンピュータ検索
第5回	2000/9/23	医薬品の広告 吉川 澄美
第6回	2000/10/15	治験広告について 寺岡 章雄
第7回	2000/11/26	医療事故訴訟から学ぶくすりの使用法 岩岡 秀明
第8回	2001/1/28	治験と臨床試験(前半)—倫理性と科学性の確保に向けて— 栗原 千絵子
第9回	2001/3/4	PubMedと医中誌を実際にやってみよう！ 宮岡 伸子
第10回	2001/4/15	治験と臨床試験(後半)—倫理性と科学性の確保に向けて— 栗原千絵子
第11回	2001/5/20	数値で見る世界市場, 医薬品企業 吉川 徹
第12回	2001/7/8	健康保険制度について
第13回	2001/8/19	プラセボの話 栗原 千絵子
第14回	2001/9/16	医療のパラダイム・シフトとしての EBM—現代科学論の立場から— 齊尾 武郎
第15回	2001/11/18	医薬品・薬害の社会学的研究の現状と展望 part.2 栗岡 幹英
第16回	2001/12/16	AIDS 危機と薬の知的所有権—私有財産か、公共財か— 栗原 千絵子
第17回	2002/1/27	コーポレートプランニングと新薬売上予測 吉川 徹
第18回	2002/2/17	医薬品機構の実際と問題点について—副作用被害を申請、認定を受けた遺族の立場から—
第19回	2002/3/10	中国の医薬品市場、日本の製薬企業の中国展開 河原 由香里
第20回	2002/4/27	医療制度改革について考える
第21回	2002/5/12	ドイツ在住日本人医師にきく医薬品使用の文化差:エビデンス・ガイドラインと医療文化を中心に 柴田三代治
第22回	2002/6/23	ウェブを介した医薬品情報提供 廣島 彰彦
第23回	2002/7/14	NBCテロリズムが一変させた米国医療—パブリック・ヘルスから考えるテロ危機管理— 浦島充佳氏(東京慈恵会医科大学臨床研究開発室)
第24回	2002/8/4	臨床研究の指針 栗原 千絵子
第25回	2002/9/22	ユネスコのヒトゲノム宣言について 中川 尚子
第26回	2002/10/6	医薬品の安全性について 鈴木 伸二(在スイス)
第27回	2002/11/17	被験者保護法制のあり方を考える～アメリカ、フランスを参考に 櫛島 次郎
第28回	2002/12/8	タバコ研究の歴史的考察と直面する問題 切明 義孝
第29回	2003/1/11	サリドマイド等未承認薬使用題と規制の現況 佐藤 嗣道、八重ゆかり、栗原千絵子、齊尾武郎

第30回	2003/3/2	(科学技術文明研究所との共催)被験者保護のための立法を考える 米本 昌平、光石 忠敬、栗原 千絵子、櫛島 次郎、松本外志張、佐藤哲男、光信 真知子、星 北斗
第31回	2003/4/19	サリドマイドの有用性・安全性評価—論文を検索し、読んでみよう! 松本 佳代子
第32回	2003/6/29	医薬品開発におけるヒト組織利用の課題 佐藤 哲男
第33回	2003/7/27	業界紙誌にみる報道姿勢—イレッサの事例から— 吉川 徹
第34回	2003/8/23	新型肺炎 SARS から何を学ぶのか—感染症をどうとらえていくべきか 中村 明子(国立感染症研究所客員研究員・共立薬科大学客員教授)
第35回	2003/9/27	危機管理と情報収集(SARS、BSEを例として)～一人として正しいどう情報を入手するか～ 戸谷 真理子
第36回	2003/10/19	欧州の薬を取り巻く環境—スイス、ドイツ、イタリアを中心として— 鈴木 伸二(在スイス)
第37回	2003/11/22	SARSを迎え撃つための基盤 角田 隆文(荏原病院)
第38回	2003/12/20	改正薬事下の新薬開発:製薬企業・CRO の新たな動向 山崎 恒義(共立薬科大学客員教授)
第39回	2004/1/25	ザ・ワークショップ:診療ガイドラインの「か・ら・く・り」 ファシリテータ:福岡敏雄、斉尾武郎、松本佳代子、栗原千絵子、他
第40回	2004/2/28	人の胚の取扱いをめぐる政策を考える(文明研・研究対象者保護法制を考える会共催) 話題提供:光石忠敬、櫛島次郎、栗原千絵子、他
第41回	2004/3/20	(午前の部) 医薬品のバーコード活用へむけて 河原 由香里
第42回		(午後の部) Q 熱菌による鶏卵汚染の実態と対策の必要性について 切明 義孝
第43回	2004/4/03	再生医療の医学的評価:骨髄と胎児由来の幹細胞臨床研究を例に (文明研・研究対象者保護法制を考える会共催) 「骨髄由来の幹細胞臨床試験の医学的評価」 岡野 栄之 (慶應義塾大学医学部生理学教室教授) 「再生医療の医学的評価と倫理的論点—胎児脳組織移植臨床試験を中心に—」 福島 雅典 (京都大学医学部附属病院探索医療センター検証部教授) 講師紹介と問題提起:櫛島次郎、光石忠敬、栗原千絵子 コメント:渡部 基之 氏(日本せきずい基金理事) 打出 喜義 (金沢大学医学部附属病院産科婦人科講師) 松本佳代子(性と健康を考える女性専門家の会副会長/共立薬科大学社会薬学教室助手)
第44回	2004/5/09	(午前の部) 薬害 HIV 事件医師調査に見る医師—患者関係 栗岡 幹英
第45回		(午後の部) 胎児細胞移植研究論文を読む会 栗原千絵子、松本佳代子、他
第46回	2004/6/13	柴田三代治先生を偲ぶ会—日本とドイツの医療:過去・現在・未来— 岡嶋 道夫 (ゲスト)高久 文麿
第47回	2004/7/17	乳がん治療:”医療者が提供するもの”と”患者のニーズ”のギャップを探る 乳癌患者会「アイデアフォー」の方々を招いて 松村 尚美、他
第48回	2004/08/07	「IRBトレーニング・フォーラム」第1回ワークショップ(文明研・研究対象者保護法制を考える会共催)企画・運営・ファシリテータ:栗原千絵子、櫛島次郎、光石忠敬、松本佳代子、斉尾武郎、丁元 鎮、他。ゲスト:浦島充佳(東京慈恵会医科大学臨床研究開発室)
第49回	2004/09/12	人工妊娠中絶は何故、どのように行なわれているか? 堀口 貞夫
第50回	2004/10/16	精神薬理の現代的展開と倫理問題についての一考察 金森 修(東京大学)
第51回	2004/11/14	薬学の岐路—薬学部6年制を考える 木内 祐二、田村 裕輔
第52回	2004/11/24	見学シリーズ1:国立医薬品食品研究所内・細胞バンク
第53回	2005/01/08	CIOMS 活動の概況—活動の成り立ち、組織、目的、活動内容、出版物— 鈴木伸二
第54回	2005/01/08	プライオリティー・メディシンとは何か?:日本の医薬品政策に向けて

		齊尾武郎（フジ虎ノ門健康増進センター）
第55回	2005/01/08	情報交換会：混合診療と承認外医薬品 栗原千絵子（科学技術文明研究所）
第56回	2005/02/05	日本における抗がん剤併用療法の実態と問題点 丁 元鎮
第57回	2005/03/06	女性の健康と経口妊娠中絶薬を考える 松本佳代子、他
第58回	2005/03/14	見学シリーズ2：国立国際医療センター・医療情報システム
第59回	2005/03/14	国際緊急援助—JICA 国際緊急援助隊の活動を中心に 富岡 譲二
第60回	2005/03/14	情報セキュリティについてのディスカッション 廣島 彰彦
第61回	2005/04/23	DALY—疾患・地域網羅性のある世界疾患情報として 吉川 徹
第62回	2005/04/23	QOL 指標の基礎の基礎：そもそも何やってるの？ 齊尾 武郎
第63回	2005/05/09	乳癌患者会アイデアフォーによる病院アンケート—患者の求める医療提供体制とは？— 中澤 幾子（アイデアフォー）
第64回	2005/06/11	科学的非行とは？—対象者の保護と研究倫理—（研究対象者保護を考える会と共催） 「公衆衛生から見た研究情報」山崎 茂明（愛知淑徳大学文学部図書館情報学科教授） 「医療裁判での証拠ねつ造—金沢大学無断臨床試験裁判から—」 打出 喜義（金沢大学講師・医学部附属病院・産婦人科） 「アメリカにおける科学的非行概念の生成（その1）と日本の裁判所の実情」 光石 忠敬（光石法律特許事務所、研究対象者保護を考える会） ・開催趣旨「医薬品開発研究と医薬ジャーナリズムの課題」 司会進行：栗原千絵子（研究対象者保護を考える会、くすり勉強会）
第65回	2005/07/23	日米欧製薬大手の04年業績から—規模格差、日本企業の生き残り素は？— 吉川 徹
第66回	2005/07/23	忘れられた疾患のための開発研究—忘れられた人々に医薬品を 平林 史子（DNDi）
第67回	2005/09/17	フランス研究対象者保護法の全面改正—外圧を利用した国内制度改革？ 榎島次郎（科学技術文明研究所） ゲスト：藤原康弘（国立がんセンター）
第68回	2005/10/15	中国の最新医療事情：お隣の国と良いお付き合いの為に 川崎 力
第69回	2005/11/12	新しい治験：セントラル IRB のキキメ 栗原千絵子（科学技術文明研究所）
第70回	2005/12/10	高齢者薬物療法の実際：無理のないやさしい治療を考える 齊尾 武郎（フジ虎ノ門健康増進センター） 追加話題提供：医薬品リスクマネジメントの国際動向 栗原千絵子
第71回	2006/1/28	病院薬剤師の実務 鎌田 泉（三宿病院薬剤部）
第72回	2006/02/25	がん免疫療法の裏側 鳥集 徹（フリー・ジャーナリスト）
第73回	2006/04/01	3回シリーズ・産科の未来を考える1：生殖補助医療と排卵誘発剤 （文明研・研究対象者保護を考える会共催） クルト・ヘルゲ・リムクス（日本オルガノン株式会社）
第74回	2006/04/01	3回シリーズ・産科の未来を考える2：経口避妊薬のエビデンス （文明研・研究対象者保護を考える会共催） 「等身大の経口避妊薬（OC）」山中 聡（日本シェーリング株式会社）
第75回	2006/05/20	医療制度改革を考える 「医療制度改革：医療費削減・特に後発医薬品問題を中心に」参加者で情報交換 「ジェネリック、周産期医療について」 廣島 彰彦（ウイズメディカルネットワーク株式会社） 「マージナルな（周縁的）医療の医療保障における位置付けはどうか」 秋元 秀俊（有限会社 秋編集事務所） 「物忘れ外来は役に立つか？」山田 嘉則（家庭医療シニアレジデント、精神科医）

		<p>「医療関連法改正と生命倫理の課題」 栗原 千絵子（科学技術文明研究所）</p> <p>「医療制度改革の論点整理と提言：格差是正により目指すべきもの」</p> <p>三田村 真（アンジェス MG(株)、東大医療政策人材養成講座一期生）</p> <p>「エビデンスで斬る医療制度改革」 齊尾 武郎（フジ虎ノ門健康増進センター）</p> <p>・全体討論</p>
第76回	2006/06/17	<p>3回シリーズ・産科の未来を考える3:産科医療の光と陰</p> <p>堀口 貞夫（主婦会館クリニック主産婦人科医）</p> <p>追加話題提供：「ドイツの助産師制度について」 岡嶋 道夫</p>
第77回	2006/07/08	<p>IRB 問題の顛末:コマーシャル/4重審査の時代</p> <p>追加話題提供：ヒト幹細胞、クローン胚関連指針、がん対策法、microdosing 臨床試験の動向について 栗原千絵子（科学技術文明研究所/臨床評価刊行会）</p>
第78回	2006/11/04	<p>病気の押し売り、そして、病気の発明:Disease mongering とは何か</p> <p>齊尾 武郎（フジ虎ノ門健康増進センター）</p>
第79回	2006/12/09	<p>研究対象者保護法の立法を考える:フランス法改正のその後と日仏共同研究のイニシアチブ</p> <p>（研究対象者保護を考える会共催）</p> <p>「フランス研究対象者保護法改正令公布～動き出す新体制の概要」</p> <p>櫛島 次郎（科学技術文明研究所 主任研究員）</p> <p>「ライフサイエンス分野におけるイノベーション」</p> <p>福島 雅典（京都大学医学部教授）</p>
第80回	2007/01/27	<p>対論:医療特許・併用療法特許</p> <p>沖 俊彦（東大医科学研究所細胞療法分野客員研究員）</p> <p>光石忠敬（光石法律特許事務所）</p>
第81回	2007/02/24	<p>医薬品の毒性試験—first in human(初めての人への投与)の前に何が必要か—</p> <p>海野 隆（日本オルガノン株式会社薬事薬制本部開発薬事部）</p> <p><追加話題提供></p> <p>（前座）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗原千絵子（臨床評価刊行会）：議論のポイント ・齊尾武郎（フジ虎ノ門健康増進センター）： <ul style="list-style-type: none"> 英国医師会雑誌（BMJ）の動物実験メタアナリシス論文（ショート・プレゼンテーション） （研究倫理の論点） ・櫛島次郎（科学技術文明研究所）：動物実験の倫理と規制 （ハーモナイゼーションの論点） ・馬屋原 宏（国際医薬品臨床開発研究所（インクロム））： <ul style="list-style-type: none"> ICH-M3（非臨床試験の実施時期）の日米欧の相違点
第82回	2007/03/24	<p>欧米企業・新薬開発の動向 吉川 徹（吉川医薬研究所）</p>
第83回	2007/04/07	<p>ハンセン病問題について:胎児病理標本問題を中心に 光石 忠敬（光石法律特許事務所）</p>
第84回	2007/05/26	<p>第一部:日本医薬品産業の行方</p> <p>第二部:今注目すべき疾患と開発中の新薬</p> <p>井上 良一（ファーマ・マーケティング・コンサルタント）</p>
第85回	2007/06/23	<p>Disease mongering とは何か?第2弾:Bendictin 問題他ケース・スタディ</p> <p>齊尾 武郎（フジ虎ノ門健康増進センター）</p>
第86回	2007/06/23	<p>タミフル問題:安全性情報の収集・分析と報道を考える 日野村 靖（医薬情報センター）</p>

第87回	2007/07/07	<p>研究対象者保護法要綱 07 年試案: ライフサイエンス基盤整備と対象者保護の仕組みを考える (生命倫理政策研究会・第 87 回くすり勉強会 共催) 「弱者を研究対象とする場合の代行判断について」 光石 忠敬 (光石法律特許事務所) 「研究基盤整備—法意識の改革を」 櫛島 次郎 (自治医科大学 (客員)) 「07 年試案作成の背景と議論を深めるべき論点」 栗原 千絵子 (臨床評価刊行会/放射線医学総合研究所 (客員))</p> <p>＜医学研究者からの提言＞ 「トランスレーショナルリサーチ共通倫理審査指針作成の背景と日本の医学研究の課題」 浅野 茂隆 (早稲田大学 先端科学・健康医療融合研究機構生命倫理科学ドメイン主査)</p> <p>＜患者会からの提言＞ 中澤 幾子 (アイデアフォー) 渡部 基之 (日本せきずい基金) 「リスク管理は研究者の責務」 (当日欠席) ＜開・閉会挨拶、司会＞栗岡 幹英、平田 智子 (くすり勉強会運営グループ)</p>
第88回	2007/09/08	<p>医薬品マーケティングの歴史とオンコロジー・マーケティング 井上 良一 (ファーマ・マーケティング・コンサルタント)</p>
第89回	2007/09/24	<p>歴史の証言シリーズ1: スモン薬害・その隠された秘話—その時企業はどう動いたか？— 鈴木伸二 (元スイス・チバガイギー社) 追加話題提供: 山崎恒義 (共立薬科大学特任教授)</p>
第90回	2007/11/17	<p>歴史の証言シリーズ2: 第一部・G-CSF 開発秘話 第二部・東海村原発事故被曝者の治療 浅野 茂隆 (早稲田大学理工学部教授)</p>
第91回	2007/12/22	<p>「被験者」としての脳—脳科学倫理を臨床から問い直す (生命倫理政策研究会との共催) 「精神外科と脳研究の過去と現在—ニューロエシックスはロボットミーの夢を見るか」 櫛島次郎 (生命倫理政策研究会) 「脳深部刺激 (DBS) の開発—その現状と展望」 片山容一 (日本大学医学部長・脳神経外科教授) 「日本の脳死論議の総括から」 光石忠敬 (生命倫理政策研究会)</p>
第92回	2008/01/12	<p>中国医薬品市場 世界に通じる日本製薬会社へ 川崎 力 (ミノファージェン製薬 海外事業部)</p>
第93回	2008/02/09	<p>被験者としての胎児—胎児外科治療の技術評価と倫理 (治験のあり方研究会・生命倫理政策研究会との共催) 「胎児への外科的治療の現状と将来」 千葉 敏雄 (国立成育医療センター特殊診療部長) ・コメント・新生児医療の観点から: 加部 一彦 (愛育病院新生児科) ・コメント・生命倫理の観点から: 栗原千絵子 (生命倫理政策研究会)</p>
第94回	2008/03/08	<p>インフルエンザと医薬品-スペイン風邪から H5N1 まで 山崎 恒義 (共立薬科大学特任教授) 追加話題提供: 医療事故調査委員会もピアレビューも AI も裁判もまったく機能しない: ある医療事故問題をめぐって 齊尾武郎 (フジ虎ノ門健康増進センター)</p>
第95回	2008/04/05	<p>動物実験と医薬品開発を考える (生命倫理政策研究会との共催) 「動物愛護団体の立場から: 動物実験についての意見」 山口 千津子 (日本動物福祉協会)</p>

		「創薬・医薬品開発研究と動物実験における3Rs」 堀井 郁夫（昭和大学薬学部客員教授）
第96回	2008/05/10	薬害肝炎とインターフェロン療法 （治験のあり方研究会との共催） 基調講演：最近の慢性肝炎治療の動向 時田 元（三宿病院消化器科医員） 医療経済及び製剤学的な観点から 鎌田 泉 薬害肝炎裁判・救済法の概要と製薬業界への課題 栗原千絵子 薬害をふせぐには 斉尾武郎
第97回	2008/06/21	臨床試験の国際化：グローバル開発をめぐる政策・科学・倫理 栗原千絵子 低中財政国における医薬品臨床試験の倫理－SOMO レポートを読む－ 斉尾武郎 ・追加：「臨床研究に関する倫理指針」改正案についての意見交換会
第98回	2008/07/12	抗体薬とは何か：サイエンスとマーケティング 「抗体医薬の現状と展望」（左仮題。発表時のタイトル：「抗体薬はバブルか」） 増保 安彦（東京理科大学薬学部 教授） 「抗体医薬の動向と我が国医薬品企業の取るべき戦略」 井上 良一（ファーマ・マーケティング・コンサルタント）
第99回	2008/08/23	「動物実験と医薬品開発を考える」シリーズ第2回 （生命倫理政策研究会との共催） －動物実験の規制・管理・審査体制と3Rsへの道標－ 「動物実験の管理・規制・削減・廃止に向けての意見」 野上 ふさ子（地球生物会議 ALIVE） 「動物実験管理体制の現状と問題点」 池田 卓也（日本チャールス・リバー(株)） 司会進行：櫛島次郎
第100回	2008/09/28	■薬害問題と薬の安全性を考える：日本製薬産業と医療の未来 「勉強会趣旨とくすり勉強会の活動について」平田 智子（薬剤師、くすり勉強会運営） 「薬害の社会学的研究の現在」栗岡 幹英（奈良女子大学文学部、くすり勉強会代表） 「日本の医薬品企業の動向・将来予測」吉川 徹（吉川医薬研究所、くすり勉強会協力） 「医薬品行政再編論と”日本版FDA”論議の動向」 栗原千絵子（放射線医学総合研究所、くすり勉強会運営） 「サリドマイド承認・安全基準の状況・問題点（仮）」佐藤 嗣道（東京大学大学院） 「”薬害防止法”の提案について」斉尾武郎（フジ虎ノ門健康増進センター） 「日本の薬学と薬害」山崎 恒義（共立薬科大学、くすり勉強会協力） 他
第101回	2008/11/01	■「動物実験と医薬品開発を考える」シリーズ第3回 －動物実験廃止への希求：理念・実状・可能性をめぐって－ ・亀倉 弘美（動物実験の廃止を求める会：JAVA） 「動物実験廃止を求める理念とJAVAの活動について」 ・海野 隆（安全性評価研究会） 「ひとりの動物実験担当者の自戒と反動物実験運動への要望」
第102回	2009/01/17	■第1部：統合失調症のプラセボ対照試験：「治療中止試験」倫理問題を中心に 第2部：「臨床研究に関する倫理指針」でどう変わる？ ・栗原 千絵子 （独）放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター 運営企画ユニット臨床研究支援室 主任研究員 （株）臨床評価刊行会 編集スタッフ ・斉尾 武郎（第1部のみ） フジ虎ノ門健康増進センター センター長

第 103 回	2009/02/07	<p>■医療制度問題を考える・第2弾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者医療制度について：参加者で議論 ・医療事故調査制度について 秋元秀俊氏（生存科学研究所医療政策委員会主任研究員） 神谷恵子氏（神谷法律事務所、弁護士） ・無過失補償制度について 光石忠敬氏（光石法律特許事務所、弁護士）
第 104 回	2009/08/08	<p>■ICH-M3 の改訂：臨床試験の前に必要とされる非臨床試験の要件 —新たな潮流と可能性をめぐって—</p> <p>海野 隆（安全性評価研究会） 「臨床試験実施のために必要な非臨床試験のタイミング：ICH 横浜会議を受けて」 馬屋原 宏（国際医薬品臨床開発研究所） 「非臨床試験のタイミング・ガイドライン：5 種の早期探索的臨床試験について」</p>
第 105 回	2009/11/07	<p>■大転換期の中の世界と日本の医薬品産業</p> <p>井上 良一（ファーマ・マーケティング・コンサルタント） Part 1 「欧米メガファーマの動向と経営戦略」 Part 2 「2015 年に向けての日本医薬品企業の行方」</p>
第 106 回	2009/12/19	<p>■ICH-S7B、E14 について：国内通知化の衝撃と新薬開発へのインパクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本坊 敏保（イナリサーチ取締役）「心電図異常に関する ICH-Guidelines:S7B（非臨床試験）及び E14（臨床試験）—厚生労働省通知の意義— ・林 隆志（イナリサーチ執行役員兼ビジネス・ディベロップメント部長）「Through QT/QTc 試験（QT/QTc 評価試験）：ICH E14 に基づく試験の実際と日本製薬企業への提案」 ・熊谷 雄治（北里大学東病院治験管理センター長）「日本での QT 間隔による心臓安全性評価の課題」
第 107 回	2010/02/21	<p>■いのちの始まりと被験者の保護—立法への道標—（生命倫理政策研究会との共催、後援：財団法人先端医療振興財団 開催：日本財団 大会議室にて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基調問題提起 <ul style="list-style-type: none"> ・梶島次郎（東京財団 研究員） 「人の発生操作に関するルールの統廃合—対外受精から ES 細胞、クローン研究まで—」 ●コメント <ul style="list-style-type: none"> ・栗原千絵子（放射線医学総合研究所 主任研究員） 「研究対象者保護と胚・胎児の保護」 ・光石忠敬（光石法律特許事務所 弁護士） 「いのちの境界と人間の尊厳—脳死・中絶・胚研究をめぐって」 ・福島雅典（臨床研究情報センター センター長） 「いのちの始まりと被験者の保護—臨床科学の原理と立法への道標—」 ●立法府からのコメント <ul style="list-style-type: none"> ・川田龍平（みんなの党 参議院議員） 「薬害防止法」と「被験者保護法」 ・郡和子（民主党 衆議院議員） 「医学・医療をめぐる制度改革への道—最善の医療を手に入れるために—」 ・小宮山洋子（民主党 衆議院議員） 「憲法・クローン法から生殖補助医療まで—いのちと権利を守る立法府の使命—」
第 108 回	2010/04/21	<p>■ケイト・ハウエル先生講演会 キーピング・ザ・ブルーズ・アウェイ うつ病の再発予防のため</p>

		<p>の 10 段階の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Gae Howell (Adelaide University, Australia) <p>「Keeping the blues away: the 10 step guide to preventing relapse of depression」</p>
第 109 回	2011/11/09	<p>■日本版ファースト・イン・ヒューマン試験ガイドラインの徹底分析と動物愛護法改正の製薬業界へのインパクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海野 隆 (医薬品非臨床安全性コンサルタント) ・ コメンテーター：熊谷 雄治 (北里大学東病院治験管理センター)
第 110 回	2012/10/19	<p>■「精神を切る手術：脳に分け入る科学の歴史」出版記念勉強会 (ゆうぼうと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 櫛島次郎 (東京財団、生命倫理政策研究会) 「精神外科の歴史からみた DBS (Deep Brain Stimulation) : その精神疾患への応用の是非を考える」 ・ 黒木俊秀氏 (国立病院機構肥前精神医療センター) 「Neurosurgery for Psychiatric Disorders (NPD) : 難治性精神疾患に対する治療の試みー悲観論が先か？楽観論が先か？」
第 111 回	2013/10/12	<p>■バルサルタン事件をみんなで考える会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栗原千絵子 (放射線医学総合研究所 主任研究員) <p>「撤回論文と海外情勢から読み解く：国内外の規制・違反事例の検討」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 齊尾武郎 (フジ虎ノ門健康増進センター センター長) <p>「眼光紙背：バルサルタン事件紆余曲折・賛否両論」</p>
第 112 回	2014/9/12	<p>第 112 回 2014 年 9 月 12 日 (金) 17:30~20:30 ウィズタワー ミーティングスペース バルブ</p> <p>■アジアの医療に学ぶ：メディカルツーリズム、精神医療、研究倫理</p> <p>齊尾武郎 栗原千絵子</p>
第 113 回	2014/11/14	<p>第 113 回 2014 年 11 月 14 日 (金) 13:30-17:30 ウィズタワー ミーティングスペース バルブ</p> <p>■企業倫理の変遷とヨーロッパにおける臨床試験制度の改正について</p> <p>齊尾武郎 栗原千絵子 鈴木伸二</p>
第 114 回	2015/1/30	<p>第 114 回 2015 年 1 月 30 日 (金) 18:00-20:30 ウィズタワー ミーティングスペース バルブ</p> <p>「偽りの薬ーバルサルタン臨床試験疑惑を追う」出版記念勉強会</p> <p>「偽りの薬ーバルサルタン臨床試験疑惑を追う」取材秘話を語る</p> <p>毎日新聞科学環境部 河内敏康氏、八田浩輔氏</p> <p>* 前座として、栗原千絵子より下記論文につき問題提起</p> <p>Regulations and credibility of Phase 4 clinical trials</p>
第 115 回	2016/10/29	<p>第 115 回 2016 年 10 月 29 日 (土) 14:30~17:30 ホテルマイステイズ御茶ノ水コンファレンスセンター</p> <p>鈴木 伸二「イタリアの薬学史について」</p> <p>栗原千絵子「CIOMS 生物医学研究指針の改訂について」</p> <p>追加発表：齊尾武郎「精神医療の此岸：相模原事件を巡ってーアジア・アフリカの医師らとの交流からー」</p>
第 116 回	2017/2/10	<p>第 116 回 2017 年 2 月 10 日 (金) 13:30~16:30 ウィズタワー ミーティングスペース バルブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栗原千絵子「研究対象者保護法試案 ~その原理と研究倫理・薬事規制の国際標準から考える」 ・ めで島次郎「研究対象者保護と臨床研究規制の立法根拠~フランスの例から学ぶ」

第 117 回	2017/3/4	<p>■提報者－韓国人クローン胚由来 ES 細胞ねつ造事件をめぐる内部告発者の証言</p> <p>・ Professor Yong-Joon Ryu</p> <p>2017 年 3 月 4 日（土）14：30～17：30 ホテルマイステイズ御茶ノ水コンファレンスセンター</p>
第 118 回	2017/9/20	<p>■「ビジュアル統計の初歩からレフリーコメントの対応まで」</p> <p>－OECD 統計ガイドラインと Pharmaco 統計ソフトの一致性－</p> <p>・ 松本一彦（名古屋市立大学大学院医学研究科 非常勤講師）</p> <p>2017 年 9 月 29 日（金）14：00～17：00</p> <p>池袋コミュニティ・カレッジ パソコン教室 PC カレッジ</p>
第 119 回	2018/11/2	<p>■「SAS, JMP, SPSS, Prism などの市販統計ソフトを使う前の</p> <p>探索的ビジュアル統計解析ソフト Pharmaco Basic と Pharmaco Clinic</p> <p>－基礎的検定手法とその応用（層別解析，カプラン・マイヤー等）－</p> <p>・ 松本一彦（名古屋市立大学大学院医学研究科 非常勤講師）</p> <p>2018 年 11 月 2 日（金）15:30～18:30</p> <p>池袋コミュニティ・カレッジ パソコン教室 PC カレッジ</p>
第 120 回	2019/12/8	<p>■国際共同研究の倫理：ブラジルからの視座</p> <p>・ Professor Dirceu Greco（Minas Gerais 連邦大学（ブラジル）名誉教授（感染症・生命倫理学））</p> <p>2019 年 12 月 8 日（日）10:00～12:00</p> <p>京王プラザホテル 本館 42F 津久井</p>

●くすり勉強会の案内を希望する方は、メーリングリストにご加入ください。

◆くすりネット・くすり勉強会は、薬・医療・社会・倫理に関する情報交換のためのメーリングリストです。

◆加入は、下記の栗原宛、（1）お名前（2）ご所属又はお仕事等（3）メールアドレス を記載の上、直接ご連絡ください。

chieko.kurihara@nifty.ne.jp 栗原千絵子

◆現状では、ML 参加の際に自己紹介を義務付けていませんが、ML に発信する際にはお名前を記載してください。

*くすり勉強会は、研究費・助成金等を得ない活動で、皆さんの参加費によって運営されています。